

スタートダッシュ ～1年目の学習ガイド～

筆者からのメッセージ (この文書のあらまし)

新入生のみなさん、入学おめでとう。

無事この慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの一員となり、あなたたちの素晴らしい大学生活が始まることだろう。しかし中には「大学の授業ってどうなっているの?」とか「何をとったらいいの?」といった疑問が尽きない人もいるだろう。本書では、大学生活を始める上で授業や講義において諸君ら新入生の指針になるべく執筆されたものだ。

第1章では「必修」について。初めての時間割作成に際し「これだけは抑えておかねばならない、気にかけておかねばならない」必修科目について言及し、間違いのない履修を目指すための章である。

第2章は「履修登録・授業」について。他大学とは少々違うスタイルのSFC、その中でスマートに授業に望めるように手引きする章である。授業のこのみでなくSFCライフをいち早く満喫できるよう学食や施設の紹介も行う。

第3章では「授業」についてを掘り下げて説明する。特に最初の半期「1年の春学期」に特化して、取るべき授業・カリキュラムを説明する。その上でこのSFCにどのような種類の授業が存在するのか簡単に紹介する。

本書が、まだ右も左もわからない新入生諸君のはじめの一步を手助けする指針になればと筆者一同は願っている。

筆者一同 (板谷、板垣、遠藤)

目次

第1章 必修～これだけは抑えなければならないこと～ 2

0. はじめに
1. 必修概要
2. 「総合政策学の創造」 / 「環境情報学の創造」
3. 「ウェルネス科目」
4. 「言語コミュニケーション科目」
5. 「プログラミング科目」
6. 「創造実践科目」「先端発見科目」 / 「ナレッジスキル科目」「創造誘発科目」
7. 「研究会」「卒業プロジェクト」
8. 「必修」のまとめ

第2章 履修・授業の流れ～SFCの授業の進み方～ 2

- 0・はじめに
- 1・時間割作成
- 2・履修申告
- 3・授業形態
- 4・成績・評価
- 5・不正行為
- 6・SFC-SFS
- 7・SFCならではのライフスタイル・施設
- 8・終わりに

第3章 授業の種類～まずは半期どう履修するか～ 2

- 0.はじめに
- 1.創造実践
- 2.先端発見
- 3.リフレッシャー
- 4.言語コミュニケーション
- 5.ナレッジスキル
- 6.半期を終えたら

第1章 必修～これだけは抑えなければならないこと～

文責：板谷祐輝(s07069yi)

0. はじめに

希望に燃えて入学した新入生もいざこの学校に入ってしまうと不安も大きいことだろう。本書ではそんな新入生の大きな不安のひとつである「履修・学習・講義」についてを解説しようと思う。

第1章ではきっと誰しもが気にかけている「必修」についてを説明しよう。

1. 必修概要

結論からいうとSFC(総合政策学部・環境情報学部)には、他学部と比較しても「必修授業」というものが非常に少ない。「決められたコース」があるわけでは無いので、良く言えば自分のとりたい授業を好きなだけ選べる、悪く言えば自分だけで選ばなければならないということである。

しかしまったく取れる授業がフリーなのではなく以下に挙げる授業は必ずとらなければならないという若干の縛りは存在する。本項ではそれについて言及する。

- ①「総合政策学の創造」/「環境情報学の創造」
- ②「ウェルネス科目」
- ③「言語コミュニケーション科目」
- ④「プログラミング科目」
- ⑤「創造実践科目」「先端発見科目」
- ⑥「ナレッジスキル科目」「創造誘発科目」
- ⑦「研究会」「卒業プロジェクト」

進級・卒業の条件は「上記に挙げた授業をとること」と、「規定数以上の単位を取得する」の二つしかない。しかし③~⑥に含まれる授業は複数あるため、その中から自分がとりたい講義を選ぶことが出来る。

2. 「総合政策学の創造」/「環境情報学の創造」

必修科目の中で講義名を名指して決められている講義はこの二つしかない。しかもこれらの授業は学部1年生の間にとることが強要されておりこれらの単位を得なければ2年生へと進級できない。新一年生の諸君には注意してもらいたい重要な授業である。とはいえ講義形式の授業で時々外部からゲストを招いて講演会をするというだけの授業で気張って受ける必要は無い。出席はとられるし仮題も多少あるが単位を得るのは難しい科目ではない。

総合政策学部の1年生は「総合政策学の創造」を、環境情報学部の1年生は「環境情報学の創造」を履修すればよい。

3. 「ウェルネス科目」

俗に言う「保健・体育」である。世間一般の大学では体育というものを必修にしないところが多いが、幸か不幸かここSFCは必修になってしまっているので割り切って単位を修得してほしい。なおこれら全ては4年生への進級に関係するので、3年生のうちに全単位をとり終えねばならない。

これらの授業には「体育I」「体育II~III」「心身ウェルネス」の3つ(4つ)の授業が存在する。学部1年生の春学期に「体育I」「心身ウェルネス」の単位を得て、3年生の秋学期までに「体育II~III」をとるのが望ましく、お勧めしたいとり方である。

「体育I」はクラスで行われる授業で同じクラスの人々と交流する少ない機会のひとつである。内容もいたって自由で(講師によるが)様々なスポーツを体験できる。こちら成績に関与されるのは出席と最

終レポート(紙媒体)のみなので、体育の苦手な人でも出席さえしていれば簡単に単位を修得することが出来る。

「心身ウェルネス」は学期間の半分の期間で行われる講義形式の授業で、これも出席および毎回の小課題・最終レポートで成績を決められる。出席と課題さえ取り組めば単位を取得できるので是非1年生のうちに済ませてしまいたい。

一方「体育II～III」は少し特殊な授業形態なので少し注意してもらいたい。これは「体育I」とは違い、自分でやりたいスポーツを選ぶことが出来る。それに毎週決まった日にち・時間にする必要もない。「体育システム」というサイトで授業を予約することで履修を認められる。授業授業の合間に自由に取れ息抜きにもなる。内容的にも時間的にも自由度が高いのだが、授業一回一回に予約が必要であるということが唯一のネックであるので注意してもらいたい。

とはいえ最初の春学期だけを考えれば、この「体育II～III」はまだ考慮に入れなくてもいいだろう。まずは「体育I」「心身ウェルネス」を春学期の時間割に入れてもらいたい。

4. 「言語コミュニケーション科目」

1. 世に言う第2外国語である。環境情報学部生はこの科目は必修では無い、即ち第2外国語を勉強する必要はない(しなくても進級・卒業は出来る)のだがせっかくの大学生活なのだから外国語を勉強することはお勧めをしておく。総合政策学部生は4年生への進級に必要なのでそのときまでに履修しておいてもらいたい。

ここSFCには第2外国語の授業としてドイツ語・フランス語・中国語・ハングル・アラビア語などが多岐に渡って用意されている。必要単位数を取得すれば、たくさんの言語を体験しても良いし、ひとつの言語を極めてもかまわない。ただし残念ながら進級に必要な単位数に「英語」「イタリア語」「ロシア語」は含まれないので注意してもらいたい。詳しい授業形態や英語については第3章で言及するのでここでは割愛させてもらう。

なお言語講義は非常に人気が高いため大いにして1年目の春からとれるということはあまり期待できない。このような事情があるので、くどいようだが最初の春学期のことだけを考えたらずらに考慮に入れてもいいであろう。

5. 「プログラミング科目」

SFCの授業の特徴としてプログラミングの授業は必修となっていることがあげられる。プログラミングの授業は目的・レベルによっていくつかあり、規定単位数(総なら4、環なら8)を学部3年生までにとり終えねば4年生に進級できない。

しかしそれ以前に、プログラミングの授業をとるために「認定試験」にパスすることが必要条件となっている。この試験はガイダンス期間に受験することが出来るのだが合格率10%程度のものであるのでたいていの学生は落ちる。不合格ならば「情報基礎」という授業をとらねばならない。この授業を1年生の春学期に履修し夏休み前の「認定試験」で合格し秋学期からプログラミングの授業を履修する、これがオーソドックスで理想的な履修プランである。

とはいえ「情報基礎」も「体育I」同様クラス単位の授業なので和気藹々の雰囲気ですることが出来る。情報基礎の内容さえ理解していれば「認定試験」はパスすることが出来る。それに試験は早くても6月くらいから複数回開催されるのでそのうちに1回でも合格すれば良い。パソコンや情報学に苦手意識を感じている人には少し辛いかもしれないがクラスの人々と仲良く勉強すれば必ず試験に合格できる力が身に付く。進級もかかっているのでは是非頑張ってもらいたい。

6. 「創造実践科目」「先端発見科目」/「ナレッジスキル科目」「創造誘発科目」

これらのカテゴリーにどんな授業があるかは第3章で詳しく言及するので申し訳ないがここでも割愛させていただく。

これらのカテゴリーの中から自分が興味をそそられる授業を選びそれぞれ2単位ずつとればよい。しかし⑤は学部1年生の間に、⑥は学部4年生進級前までにとらねばならないので、新入生の諸君は⑤に注意してもらいたい。春学期間にとることが望ましい。

7. 「研究会」「卒業プロジェクト」

研究会とは担当する教授の研究分野で、学生たちも参加して研究する授業のようなものである。その形態は担当教授によって様々で、一様には説明できない。一般には学部2年生時、早くて1年生秋学期から履修するが、もちろん興味があれば1年生春学期から履修することも可能である。既に自分がやりたいことが決まっているならば、似たようなことをしている教授の研究会に参加することをお勧めしよう。

4年生進級までに2単位習得すればよいので簡単だが、継続してその研究会に参加することも出来る。

一方「卒業プロジェクト」であるがこれは4年生時、即ち卒業前に取り組むもので、昔で言う卒業論文と同じ扱いのものである。しかし論文である必要は無いし、人によっては映像・音楽・プログラムなど様々である。メンターと相談しながら決めていけばよい。

なおメンターというのは自分が大学で取り組みたいことをアシストしてくれる教授のことで、1年生時はランダムで割り振られるが2年進級時からは自分で選べる。今は自分のやりたいことを見つけていくのが重要なので卒業制作について考える必要はまだ無いだろう。

8. 「必修」のまとめ

以上のように入学したての今、考えなければならないことは少なくはないが、まだ気に留めなくてもいいことも確かにある。現状の履修プランははっきりいえばそれほど重要なことで無いのだから「1年次の必修なんだ」と割り切って履修していただければと思う。

その後で自分のやりたいことを見つけ好きな授業をとってもらいたい。

第2章 履修・授業の流れ～SFCの授業の進み方～

文責：板垣翔太(s07067si)

0・はじめに

第1章でSFCの履修のイロハは十分理解してもらえたことだろう。そこで、この第2章では、実際に履修を登録する際の手順や、授業の流れ、そしてSFCなら絶対に知らなくてはならない『グルワ』や『残留』といった語句についての解説をしていきたい。

まず言いたいのは、大学の時間割というものは高校までの時間割と違って先生から与えられるものではなく、自分で一から組み立てるものということだ。その組み立てに関してはまさに第1章で述べた通り、「良く言えば自分のとりたい授業を好きなだけ選べる、悪く言えば自分だけで選ばなければならない」のだ。実際に他人と全く同じ時間割を履修している人はまずいないだろう。諸君の時間割をオリジナルリティ溢れ、かつ立派なものにするためのヒントを以下に述べていきたい。

- 1・時間割作成
- 2・履修申告
- 3・授業形態
- 4・成績・評価
- 5・SFC-SFS
- 6・SFCならではの学習システム

1・時間割作成

SFCでの時間割は学生の手によって作られるものだが、いきなり授業を選べと言われても選ぶのは困難だろう。そこでSFCではショッピングウィークという名の猶予期間が設けられている。このショッピングウィークとは授業開始時の最初の1週間のことである。その名の通り、買い物客は学生自身でショッピングは各講義だ。ほとんどの講義の初回授業はガイダンスにあてられており、授業形態や評価方法の基準やシラバスの解説などが行われる。つまり、実際に授業が始まるのは第2週目からなのである。そして、この期間を利用して、様々な授業を視察し、授業の雰囲気や教授を気軽に味見することが上手な時間割作成の第一歩である。

ここで、どうしても注意しなくてはならないことが一つ、それは履修選抜である。授業によっては履修人数を制限しているため、初回授業の際にミニレポートの提出などを行い、履修者を選抜するのである。この履修選抜に漏れたり、行きそびれてしまうとその授業はその期に履修出来なくなってしまうので注意が必要である。また、万が一履修選抜に漏れた場合も想定し、代替の授業をあらかじめ考えておくのを勧める。

言語に関しては入学してすぐにθ館でガイダンスが行われるので、新入生はそれに必ず参加し、自分の興味をもった言語の初回授業に参加すると良いだろう。第1章で述べた必修授業についても十分に加味しながら、自分だけの立派な時間割を作ってくれることを期待する。

2・履修申告

ショッピングウィークも終わり、時間割が決定したら今度は履修申告を行わなくてはならない。履修申告とはその学期に履修する授業を登録することであり、SFCでの履修申告は全て学事Web上で行われる。申告できる単位数は自由科目を含めて30単位までである。定められた期間内に履修申告をしないと、その学期は授業を履修することができなかつたり、最悪の場合退学に処せられる場合もあるので十分に注意していただきたい。

履修申告の方法であるが、先述したように学事Web(<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>)にアクセス・ログインし、その学期の履修科目を選択し登録する。細かい手順については、入学前に配布されるSFCガイドに書いてあるので、参照しながら履修申告を行うことを勧める。

3・授業形態

SFCには様々な講義がある。基本はどの講義も毎週の授業に出席することになるが、出席確認の有無や成績評価の方法などは全て各教授に委ねられている。例えば、リフレッシャー科目では、主に出席が重視されることになる。その一方、ワークショップ系の科目では授業外のグループワーク(グルワ)が学習の中心になる。教材についても、教科書の購入が必要な授業や、授業資料のパワーポイントを毎回アップしてくれる授業もある。

上記のグルワについてここで少し説明しておきたい。グルワはSFC特有の学習システムの一つであり、授業外の時間にグループで集まって授業の課題に取り組むというものだ。グルワには一過性のもから、授業開始から終了時まで続くものもあり様々である。授業外の活動が中心なので、一学期にとるワークショップ系の授業は多くても2コマにしておくのが無難だろう。負担も大きい反面、学ぶものも大きく、また思いがけないきっかけで新しい友人ができるのもこのグルワの魅力である。

4・成績・評価

SFCでの成績は主にA・B・C・Dの四段階で評価される。内容はAが特に優秀な者であり、以下B・Cと続く。Dをとってしまうと残念ながらその授業の単位は取得できなかったということになる。評価の基準も、各教授に委ねられているのだが、基本的には出席点、最終課題、レポート、テストによって評価される。ワークショップ系の授業であると、授業の最後にグループでプレゼンテーションを行うなど、グルワの成果を評価の基準とする。いずれの課題も日頃の授業に基づくものなので、毎回の授業に集中して臨むことが良い成績をとるための鍵である。

授業とは毎回の積み重ねによって学習を深めていくので、毎回の授業にしっかりと出席し、課題やテストに全力で取り組むことなくして、好成绩をとることはできないと心に留めておいてほしい。

5・不正行為

不正行為については十分な注意が必要である。この点についてSFCは他の大学よりも厳しくチェックされるかもしれない。テストにおいてのカンニングはもちろん、レポートの無断引用や出席表の偽造をしてしまうと、その学期に履修した全ての単位の取得が不可能になってしまう。特にレポートに関しては、もし文章を既存の作品やネット上から引用する場合は、必ず出典と引用した箇所を明記しなければならない。

楽に課題を終わらせることに目が眩み、取り返しのつかない事態にならないように諸君には高い志をもち課題やテストに取り組んでほしい。

6・SFC-SFS

SFC-SFSとはSite For Communication among Students, Faculty and Staffの略であり、学生と教職員間の潤滑なコミュニケーションを支援するためのサイトである。このサイトを通じて、メンターとの連絡や時間割の確認、さらにはシラバスや授業の評判までチェックすることができる。特にMy時間割の機能は、時間割を作成する際に大変便利である。各授業の講義のパワーポイントのダウンロードや、課題の提出もSFC-SFSを利用するものがほとんどで、学生と教員のインタラクティブなコミュニケーションが常時行われており、SFCでの生活に最も必要なサイトと言っても過言ではないだろう。

7・SFCならではのライフスタイル・施設

SFCの施設の名称はギリシャ文字を用いて表記されている。比較的人数の多い授業は、θ館やΩ館で行われる。少人数な言語の授業はκ・ε・ι・ο館を中心に行われ、言語研究室はλ館に設置されている。SFCの中心にはメディアセンターあり、ここでは本の貸し出しやコピーやパソコンの利用が無料でできるが、利用には学生証が必要である。他にも豊富な運動施設が設置されたγ館や、研究棟のδ館等様々な施設がSFC内にはある。

また、SFC特有の学習スタイルで残留というものがある。これはSFCで夜通し勉強することであり、主にグルワや課題の作成の際に行われる。残留の際は、巡回している警備員に届け出る必要がある。学期末には残留している学生も多く見られ、グルワや課題に苦労している様子を物語っている。

最後にSFCでの昼食について述べておきたい。SFCには二つの生協食堂とsubwayの食事施設があるが、肝心の昼休みが設けられていない。その結果、授業が2・3限と続いていると昼食をとる時間がとれないのである。その為、SFCでは一部の授業を除いて、授業中に飲食することを認めている。よって、家から持参したお弁当や、生協やコンビニで売っているおにぎり等を授業中に学生が口にする光景が多々見られる。とにかく自分が授業中に飲食する場合、他の学生の邪魔や教授への失礼にならないように速やかに済ますことが大切である。

8・終わりに

以上に、履修申告から成績の評価方法まで授業の流れを説明してきた。百聞は一見に如かずという言葉が表わすように、グルワや残留などは自分で経験するまでは感じが掴みにくいだろう。しかし、最初に慣れてしまえばどれもSFCらしい学習スタイルであり、今のうちにしかできないことであると前向きにとらえていただきたい。

第3章 授業の種類～まずは半期どう履修するか～

文責：遠藤 忍(s07154se)

0.はじめに

第3章では、SFC生としてのスタートを切る最初の学期に、どのように履修を計画したら良いかを示したいと思う。

総合政策学部・環境情報学部というのは、見かけ上の区切りである。総合政策、環境情報というくくりを超えて、多くの分野が、複雑に絡み合っている。私たち学生は、多種多様な学問領域から、自分の専門を選んで学習・研究していく。

授業計画を立てる上で必ず考えねばならないのが単位の上限だ。半期の単位上限は20単位、週に10コマの授業が、卒業要件として履修できる。SFCでは、1年生からほぼ全ての授業を自分で選択する。自分のテーマが分からない人は、538もある科目から10科目を選ばねばならず、大変な作業になる。

必修のカテゴリに目を向けると、ほぼすべてが導入の授業であることに気づく。どれも研究のテーマを見つけたり、手法を学んだり、基礎知識を身につけたりする科目である。つまり、導入科目を最初の1年で学んでおくことが、学習テーマ選びや研究活動に大いに役立つということである。

ならばこの章では皆さんに、必修科目を中心とした履修プランニングを勧めたい。やりたいことや、興味のある授業があるならばぜひ履修してもらいたい。だが、知識・スキル・興味をしっかりと身に付けてからの方が効率が良い学習ができる。特に、最初の半期で必修科目を押さえてSFCの授業体系に慣れれば、それ以降の履修に迷う事も無くなるだろう。

これから、5つの科目カテゴリについて解説をするので、これを参考にプランニングをしてほしい。

- 1.創造実践科目
- 2.先端発見科目
- 3.リフレッシャー科目
- 4.言語コミュニケーション科目
- 5.ナレッジスキル科目

1.創造実践

創造実践科目は、シフト系科目に属するカテゴリである。シフト系科目は、暗記型の受験勉強からSFCで求められる創造的な学習、研究活動への移行をするためのものである。

SFC的な「何かを生み出す方法」を、学生が自主的に行動・経験する「ワークショップ」によって体験するのが創造実践科目である。SFCで扱われる多くの学問領域をベースに「創造」「実践」を体験できる。たとえば、外交政策、政策デザイン、リーガルなどの法律・政治系のワークショップ、ゲノム解析、認知科学、情報技術などの技術・科学系のワークショップがあり、自分のテーマを深めていくきっかけにできる。また、コミュニケーションについて考える4つの実践授業、デザインに関する3つの授業があるなど、SFCの学問領域の大半をテーマとして取り上げられている。

さらに、創造実践科目では、新しい考え方を自分から体験して学んでいくことができる。たとえば、コラボレーション技法ワークショップや新事業創造ワークショップという授業では、企業、行政、市民などがこれまでの枠を超えて協力し、新しい事業を生み出すことを学ぶ。このように、SFCならではの手法・考え方を学ぶことができるワークショップが用意されている。また、これまで読者の皆さんが知り得なかった研究のためのスキルを学ぶためのワークショップも用意されている。

授業の性質上グループワークや課題が多くなる。そのかわり、評価は成果やその過程に対してつけられるので、テストは行わない場合が多い。単位数は2単位のものが大半だが、構成上、連続2コマのものもあるので注意してほしい。ちなみに筆者は、このカテゴリから同時に5つの授業を履修した。

2.先端発見

先端発見科目は、シフト系科目に属するカテゴリである。21の科目が開設されている。

SFCでは、時代の最先端の学問に取り組んでいる。学生は、何か新しいもの(=技術や政策)を生み出す研究に取り組み、最終的に「卒業制作」をしなければならない。先端発見科目の役割は、SFCで取り組まれている研究のベーシックな部分を紹介する科目である。少しでも興味のある分野があれば、積極的に履修することをお勧めしたい。

たとえば「ソーシャルイノベーション」「ソシオセマンティクス」など、様々な分野に対応する研究が紹介されている。もちろん法律、政治、国際関係はもとより、スポーツとビジネス、コミュニケーションなどの分野でも授業が開設されている。環境情報系についても、環境や情報の分野はもちろん、生命システム、都市計画、建築、認知科学、デザインについての知識を身に付けることができる。

先端発見は自分のテーマ、「したいこと」について知るだけの科目ではない。

筆者は「インターネット」という授業を履修した。それを専門にするつもりなど全くなかった。しかし、その授業を通じて技術論だけではなく、著作権の問題やインターネット技術の転用方法などにも触れることができた。さらにゲスト講演もあって、知識の幅が広がったと考える。

このように、自分の専門とする分野と全く関係のない授業でも、そこから得られることがある。既存の学部では得られないような教養知識を得ることができるという点で、先端発見科目はぜひ履修してほしい科目である。

研究の紹介という性質上、講義のスタイルを取ることが多く、大教室で行われることが多い。科目によってはグループワークも存在する。また、テストの有無も授業によって異なる。

単位数は2単位のものばかりで、進級要件を満たすには2単位を取らねばならない。ちなみに筆者は、1年生のときに「インターネット」と「リーガルマインド」を履修した。

3.リフレッシャー

リフレッシャー科目はシフト系科目に位置づけられており、年間で6科目開講されている。

ご存知、SFCの入試は、英語・数学・小論文、もしくはAO入試であり、偏りがある。リフレッシャー科目では、少なくともSFCでの学習に必要な、高校までの知識を再確認するための科目である。

後に述べるナレッジスキル科目では、数学的知識を使うことがある。また、SFCの英語教育は「プロジェクト英語」と呼ばれ、英語を「利用して」何かを作る授業になっている。さらに、SFCでは特にバイオ系の授業が開講されており、研究のために山形の研究施設に行く学生もいる。その他環境分野などの理系的先端研究に取り組む授業も多い。

こうした、先端的な授業を履修していくためには、当然「核」になる基礎知識を押さえる必要があるため、数学基礎、科学基礎、英語基礎の授業が開講されている。自身の高校までの知識だけではどうしても不安という場合は、履修すべきだろう。

特に重要な科目が、第1章でも触れた情報基礎である。この授業を通じて、SFCのコンピュータ環境の使い方や、基本的なコンピュータについての知識を得る。単位を取得し、さらに情報基礎認定試験に合格しなければ、必修であるプログラミング科目の履修は認められない。

また英語基礎についても、全員受験が義務付けられているTOEFLのテストで一定点を取れなかった場合に履修することになる。英語基礎で充分英語力をつけ、TOEFLのスコアを伸ばさなければ、「プロジェクト英語」の履修は許可されない。

このように、リフレッシャー科目の履修は避けて通れないものでもある。リフレッシャー科目自体は卒業要件に含まれないが、必要に応じて履修しなければならない。

情報基礎は体育のクラスと同じメンバーで受講し、クラスごとに曜日・時間が決まっている。数学・科学基礎については、履修するか否かは自分の自由である。英語基礎については、最初の学期に履修することはできない。最初の学期でTOEFLのテストを受験し、次の学期から履修できるようになる。

4.言語コミュニケーション

言語コミュニケーション科目は創造技法科目に含まれるカテゴリである。創造技法科目は、研究に必要な手法・スキルを身につけるための科目である。

外国人と日本人の行き来が激しくなる時代に突入し、外国語でコミュニケーションを取らねばならない機会が多くなってきている。それだけではない。たとえば都市計画といえばドイツ語、アフリカ問題といえばフランス語というように、SFCの学問領域と「言語」には密接な関係がある。

将来社会で活躍する上で、また自分の研究テーマに取り組んでいく上で、「言語」は重要なスキルとなる。SFCでは、11カ国語を学ぶことができる。また、自分の好きな言語を好きなだけ履修することが可能である。

ここではまず、初級の段階について説明しよう。初級段階では2つのコースが用意されている。週4コマの「インテンシブ」コースと週2コマの「ベーシック」コースである。

「インテンシブ」では、ほぼ毎日授業を受け、短期間でコミュニケーションできることを目標としている。言語によってシステムは異なるが、だいたい1年間履修することで日常会話ができるレベルに上達できる。コミュニケーションに主眼がおかれているため、授業は少人数で受ける。履修のためには、学期の始めに志望理由書を書き、履修選抜を通らねばならない。

一方の「ベーシック」コースは、週2コマなので比較的ゆっくりと授業を受ける。ドイツ語を例にとると、ベーシックコースを2期受けることで、インテンシブコース1と同等の能力を得ることになる。ベーシックコースを終えた後にインテンシブコースに移ることも可能である。履修選抜が基本的に無いので、人数はそれなりに多い。

必修単位が設定されているが、それはあくまでも最低限である。これをきっかけにして言語をどんどん学んでいくことが望ましいとされている。おすすめはインテンシブコースでしっかり言語を学び、他の言語を学びたい場合はベーシックを履修する事である。言語科目は朝が早く、また授業時間が多いので大変であるが、身につけて損は無い。

なお、すでに開講されている言語を習得している（たとえば高校で勉強した、かつて海外に住んでいて言語を使える）場合には、認定試験を受ける事で飛び級する事が可能である。言語科目は春に人気が集積しがちである。なので、じっくり秋学期からの履修を考えるのもひとつかも知れない。

5.ナレッジスキル

ナレッジスキル科目は、創造支援系創造技法科目に含まれる。全部で36の科目が開講される。

SFCの理念に「問題発見、問題解決」というものがある。様々な問題を研究テーマとして定め、それを解決することである。しかし、最初のうちは何が問題なのか、その問題の本質は何なのかが見えてこないことが多い。そして問題が複雑に絡み合いすぎて、簡単には解決することができない。

ナレッジスキル科目では、問題の発見から解決に至るステップ・そして正しく問題を見定めるための調査のスキルを学ぶ科目を用意している。研究の過程の中で複雑な問題を解きほぐし・明確化し、解決方法を見つけやすくすることができる。

問題を明確にするための調査スキルとして、ナレッジスキル科目には5つのカテゴリが存在する。

「データ獲得」(データを得る方法)、「データ編集」(データを整理して分かりやすくする)、「データ分析」(データをもとに分析する処理プロセス)、「モデリング・シミュレーション」(モデルづくりとシミュレーション)の4つのステップがある。そして「数理社会」では、上記4つのプロセス・スキルに必要な数学の基礎知識を学習する。データを扱う上では数学的知識が必要になるため多くの科目が開講されている。これら5つのカテゴリをまんべんなく学ぶ事で、研究に必要なデータ処理をスムーズに行えるようになる。

5つのカテゴリの中から、少なくともその入門的な科目は履修しておくことが推奨されている。早い段階から履修してそのスキルを得ておけば、きちんとデータを用いた実証的な・レベルの高い研究をする事ができる。また、入門科目の履修が不安であれば、リフレッシャー科目とあわせて履修することも推奨されている。

筆者自身、その難しいネーミングから履修を避けてしまったという後悔があるため、しっかりシラバスを参照した上で、必要な科目を履修する事を強く勧める。なお、卒業要件は4単位となっているが、これも最低限度のものと考えておく事を勧める。また履修にあわせて、講義案内の「ナレッジスキル科目の関連図」を参照すると良いだろう。

6.半期を終えたら

最初の半期・あるいは1年目では、これまで述べてきた科目群の授業を中心に取ってみよう。そのなかで、研究のための基礎スキル、基礎知識を十分に得て、自分自身の研究テーマを見つけてもらいたい。これ以降は先端導入や先端開拓科目を履修してより専門知識を深めたり、研究会に所属して実際に研究活動をやってほしい。

もちろん、冒頭にも述べたが、この章で触れた科目だけを取れという訳ではなく、興味のある科目があれば、どれだけ難易度が高くてもチャレンジして行って構わない。また、この章で触れた科目を1年生の後期以降に履修しても構わない。

第1章、第2章を含む本編全般を通じて、SFC生としてのスタートダッシュを無駄なく切る事で、充実したSFC生活を送ってほしい。

参考文献：

SFCガイド2007

総合政策学部・環境情報学部講義概要2007

スタートダッシュの経緯と解説

<文書全体のミッションと経緯>

今回私たちが、「SFCの新生に有益な情報を載せた文書」というテーマで文書を作成するにあたって、最初に考えたことは、「分かりにくかったことを分かりやすくしよう」ということである。

今回のメンバーは3人とも1年生であった。入学当初はそれぞれ、「よく分からないこと」を抱えて過ごしていたが、半年を過ごすうちにだんだん慣れていった。これから入ってくるであろう新生には、スムーズに学生生活に慣れてもらいたい。そういう観点から、「分からない」と感じる点を明確にしよう、という視点で取り組むことになった。

KJ法という方法を用いて論点を整理していくうちに、新生にとって重要で、かつ自分たちが分かりづらさを感じていた点が、学習に関することだったことに気づいた。複雑なシステムや、分かりにくい履修カテゴリを早くから理解していれば、新生もスムーズに学生生活にとけ込めるだろう。そうした思いから、この文書のコンセプトを「1年目の学習ガイド」とした。

<第1章の経緯・解説>

第1章では、必修のカテゴリについて述べた。

コンセプトが決定してから再度KJ法をやって、授業のシステムについて分かりづらさを感じた。とくにどこが分かりづらいかと考えているうちに、必修の科目について押さえておく必要があることに気がついた。

間違いのない履修のプランを立てるためには必修の科目について押さえておく必要がある。どんな必修科目があるのかだけでも分かっていたら、プランを立てやすくなる。そこでこの章では、どんな必修科目があるのかについて、細かく解説した。

<第2章の経緯・解説>

第2章では、授業の進み方について述べた。

大学の授業はどのように進んでいくのか、不安だった。もちろん、テストや成績についても不安があった。入学から半年経って、だいたい雰囲気がつかめてきて、何が重要なかが分かるようになった。

SFCの授業スタイルは他大学とは違うものである。そのなかでスマートに学生生活を送るためには、まず授業に関するシステムを知っていることが必要だ。そこでこの章では、SFCらしいライフスタイルや、SFCならではのシステムについて解説した。

<第3章の経緯・解説>

第3章では、授業の種類について述べた。

履修プランを立てる上で、どんな種類の授業があるのかを押さえておく必要があることは分かっていた。しかし、あまりにも科目数が膨大で、それらを網羅することは到底不可能だった。第一、筆者自身も多くの科目数から特定の科目を選ぶことはなかなか難しいと感じていた。

そこでこの章では、まず最初の半期で必修科目を網羅することを勧め、その解説の中でSFCにどんな学問分野があるのかを説明した。また、なぜその科目をとらねばならないのか、という理由付けを行い、学習の意欲を駆り立てようとした。